

# 会 報

2013年9月15日発行

静岡県技術士協会・公益社団法人日本技術士会 中部本部 静岡県技術士会  
事務連絡担当 山之上 誠 Phone 054-246-7741 / FAX 054-246-9481 E-mail ymakoto@geebec.co.jp  
会長：岡井 政彦 専務理事：山之上 誠 会計：松本 亨 会報担当：關 尚彦・柴田 達哉  
会計振込先：静岡銀行磐田支店 支店番号 321 普通 0980271 静岡県技術士協会（会計 松本 亨）

## 静岡県技術士協会から静岡県支部への組織移行を考える（その1）

会長 岡井 政彦

会員の方々においては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は当会の運営につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて標題について会長の立場から会員の皆様に問題提起をいたします。日本技術士会の会員の方々のご存じのことかと思いますが、日本技術士会に未加入の会員の方々にも今後の組織運営の方向性をこれから考えていただく必要がありますので、今後会報と例会を通じて皆様に討論を呼びかけたいと考えております。

### <日本技術士会の組織変更>

2011年23年4月に日本技術士会が社団法人から公益社団法人へ組織移行し、社会的な認知度や評価も高まり、同時に中部支部が中部本部（地域本部）になりました。これら一連の組織改革の中で、公益社団法人日本技術士会より各県技術士会に支部設立についての要請がなされ、2013年6月現在、県組織は関東甲信越地域に8県、地域本部管轄地域に10県が設置されております。

このような状況を踏まえ、中部本部傘下の各県技術士会（愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）としても、県の今後の組織の在り方を考えるた

めに、当協会の前会長の時代から中部本部内にて県組織の検討会を何度か重ねてきております。また会員の方々もお気づきのように、現在の当会の組織名称も「静岡県技術士協会」と「公益社団法人日本技術士会中部本部静岡県技術士会」の2本立てとなっており、これにより日本技術士会中部本部からは年間18万円ほどの活動助成費が出ております。

現在、静岡県技術士協会は任意団体ですが、今後もこの組織が活発な活動を進めるためには、日本技術士会の要請に答えて、組織の位置付けをより一層明確にする必要があると考えます。その手段の1つが今回の公益社団法人日本技術士会静岡県支部への組織名称の1本化であると考えております。

### <組織変更によるメリット>

公益社団の法人格を有する組織に入ること、静岡県における社会的立場が明確になり、喫緊の課題である静岡市との大災害時の復興支援、県の各部局との業務支援、あるいは小学校への理科特別授業支援などをはじめとする社会貢献活動への関与等機会のさらなる拡大が期待できると考えられます。また、技術士活動をとおして社会との接点が広がり、技術士の

責務である「公益の確保」を果たし、さらには技術士個人の「資質の向上」につながることも重要な事項であると考えます。これらが進むことにより、技術士の社会的認知度の向上が期待でき、日本国全体の産業技術力向上につながるものと確信いたします。なお言うまでもなく、県下の日本技術士会会員全員が県支部会員となりますので、会員の増加とより一層の CPD 活動の活発化が進みます。

#### <今後の進め方>

技術士会県支部の設立手法については他県の例にならない、現組織を移行する形態をとるこ

とがベースになると思います。現在静岡県技術士会に組織されていない日本技術士会の会員（名簿上準会員百名弱も含めトータルで三百名弱の会員）および非会員間の障壁をできる限りなくし、現行の運営形態を生かした組織変更を目指すべきであると考えております。今後、中部本部傘下の他県技術士会の役員と意見交換をしながら、その結果を当協会会員に状況を説明し、支部設立に向けて理解を得る努力をしていきたいと考えております。

なお次号では、県支部設置に伴う問題点を詳述する予定です。

## 2013 年度 第一回例会報告

開催 2013年7月19日（金）

文責：広報担当 柴田 達哉

### 富士フィルム（株）富士宮工場と富士宮市中心部再開発 見学

#### 1. はじめに

本年度第1回例会は、東部地区にて富士フィルム（株）富士宮工場、富士宮市中心街の再開発、富士宮浅間大社及び高砂酒造の見学を行いました。

開催日は、猛暑が連日続く、最も高い気温が予想される午後2時からでありましたが、当日は気温も低く、過ごしやすい日和となりました。

以下に、見学コースの順に従い、その内容をご報告いたします。

#### 2. バスの車窓からみる富士宮駅周辺の再開発

集合時間午後1時30分過ぎ、富士宮駅南口から貸し切りバスに乗り、富士宮市都市整備部長である角入会員から富士宮市市街地整備状況やJR身延線鉄道高架化事業のパンフレッ

ト等が配布され、富士湧水を利用した養鱒業が盛んな過去の風景や再開発の経緯と説明と共に駅周辺を回遊しました。

#### 3. 富士フィルム（株）富士宮工場

ご案内して頂いたのは、総務部鈴木部長様、澤入様をはじめに事務部生産管理課の北野様及び見学サイトである「動力課」と「環境保全課」の専門担当者の方々であります。

まず最初に、会議室での富士宮工場の概要についてビデオ映像を含めてご説明を頂きました。なお、工場内での写真撮影は、案内者の許可を受けた場所のみで行いました。

##### （1）工場の概要

富士宮工場は、1963年に創立され、富士山麓の富士宮市大中里にあり、敷地面積約

357,000m<sup>2</sup>、グループ会社従業員約 1,500 名の  
大規模工場で、全社工場の中でも富士宮工場が  
マザー工場としての位置づけにあります。主な  
生産品目は、レントゲンフィルム（全体の約半  
数を占める）が主体としており、それ以外に写  
真印画紙やインクジェットペーパー、最近  
は機能性 PET といわれる太陽光パネルの基  
材フィルムや塗布の技術やクリーンルーム環  
境を生かした液晶ディスプレイ分野での最先  
端技術であるトランサーフィルムを開発生  
産しています。

写真印画紙とインクジェットペーパーは、大

きく分けて原紙製造工程、ラミネート製造工  
程及び塗布工程があり、理想的に滲まず均一  
な製品となるため、インク吸収層と固定層を  
設ける技術（LUMINAX 技術）を導入してい  
ます。また、レントゲンフィルム部門では、  
世界に先駆けた FCR (Fuji Computed Radiography  
の略のよう  
です) システムを開発しています。

品質を向上するための技術開発以外にも、  
今回の見学サイトである動力課や環境保全課  
では、この工場の緑ある立地環境を大切に  
するため、環境管理にも取り組んでいます。



写真-1 集合写真

## FUJIFILM 富士フイルム株式会社 富士宮工場見学記念 H25.7.19

### (2) 動力課の見学

生産工場の入り口にあたるエネルギー部門  
ですが、CO<sub>2</sub> 排出削減と生産コスト縮減のため  
に自社の火力発電所で製造エネルギーを生  
産しています。そのためボイラー燃料は、重油か

ら都市ガスへ替えたシステムを導入してい  
ます。工場の電気使用量と蒸気使用量は、それ  
ぞれ平均約 30,000kw と約 54t/h であり UK-1  
から UK-5 の 5 系統設備があります。それぞ  
れ、バックアップ的な役割や使い分けもあり、リス

ク分散されています。電力会社からの夜間購入もあり、最大 19,000Kw は売電しています。

なお、会員から電力の自家発電と購入では、コストで合理化できるかの質問がありましたが、「自家発電と売電でコスト減となる」という答えでした。



写真-2 UK-2 設備系統での発電装置  
(蒸気をピストンエネルギーに変換)

### (3) 環境保全課の見学

工場の出口にあたる部分で、廃液とガスの浄化処理と熱の再利用を管理する部門であります。

富士宮工場の特徴として、製紙業と化学製造業の二つの業種が混在していることから排水処理の種類（水質変動が大きい）が多いこと、廃液に銀を含むこともそのひとつです。そして、排水は一般河川である潤井川へ放流しています。

放流までは、多くの浄化過程を経た排水システム（無機物の薬品による沈殿凝集処理と好気性バクテリアでの凝集沈殿と汚泥システムによる有機物処理）により実現化していますが、銀を含む汚水と焼却灰については、銀の回収を行う装置を加えて全体システムとしています。

富士宮工場のミッションである「自然の恵みに感謝し、社会地域と従業員が安心して暮らせる環境を未来を見据えて行動する」に基き、排水基準値の厳格化やハザード対策システムの

構築及び生産物での不良品の再利用化企画も行っていきます。

なお、会員からの質問で①「岳南排水路から河川放流への切替え意味」、②「研究部廃液処理はどう処理しているか」と③「処理量と放流量が異なるが、どうしてか」がありましたが、①「古いことなので詳細には不明であるがコスト面と自前処理責務に対する経営判断もあるのでは」、②については「Bという一般生産排水ルートと同様に内部処理しているが、溶剤のみは外部処理」。③については「冷却水は無処理のまま放流しているので放流量が多い」との回答を頂いた。



写真-3 環境保全課の説明

## 4. 富士山本宮浅間大社

宮司より境内を歩きながら歴史的背景なども併せて、ご説明を頂きました。

浅間大社は、神が宿るといわれる富士山の繰り返される噴火を鎮めるために 110 年現在の山宮浅間神社に浅間大神を遷したことから富士宮の地に建立されました。その山宮浅間神社は本殿の建物はなく、直接富士山を拝む古代祭祀の形をとっていましたが、806 年坂上田村麻呂が、現在の地に遷し、壮大な社殿を建設しました。

その後、1604 年に徳川家康が本殿・拝殿を

始め、30 余棟に及ぶ社殿の造営を行い、他に例を見ない国の重要文化財となる二階を持つ檜皮葺きの建物を建設しました(写真-4 参照)。

宮司には、本殿の維持管理に膨大な費用を要することや富士山頂の奥宮のお賽銭にまつわる財務省との行政訴訟のお話(昭和 49 年最高裁判所判決で勝訴)をお聞きしました。



写真-4 浅間大社本殿

さらに天然記念物に指定されている湧玉池(約 30 万 t/日)で多量な湧水に直接接触することでの冷たさを体感し、富士山からの雪解け水の長い旅を感じました。

普段、知る機会のない逸話等を伺うことができ、さらに造詣を深めることができました。

## 5. 高砂酒造

最後にお楽しみの高砂酒造の見学です。蔵元の社長様の酒つくりの原典のようなわかりや



写真-5 試飲会

すく中身の濃い工程説明をお話して頂きました。また、最後には高砂酒造様が手がけている日本酒の試飲をさせて頂き、お酒の奥深さを堪能いたしました。

高砂酒造は、創業 1830 年の老舗酒造所です。社長の説明では、原料とする米の使用量が 50% 以下であれば大吟醸と呼べるそうです。ちなみに、こちらで使う酵母菌は、「静岡酵母」という静岡県技術士協会河村傳兵衛会員が発明されたもので、それを使うことで一段とおいしくなったという評判です。

また、良く耳にする「山廃仕込み」とは、通常「米を山に盛った仕込み」工程で使用される乳酸菌を使わずに長時間かけて低温で自然に発生する乳酸菌により糖化させる作り方で「山にする作業を廃止する」意味であるそうです。時間を掛け育てた分、高価であるわけです。また、本物の「生酒」は、春先に発売される熱処理しない酒を指すのですが、大手メーカーの熱処理しないで貯蔵したものを腐らないように瓶詰めして販売しているものと一線を画するそうです。

この酒造りでも富士宮ならではの富士山からの恵みである伏流水(軟水)を使用しています。そのため、やさしい酒に仕上がるそうです。

## 6. 懇親会

富士宮駅近くの COLOVO にて懇親会を開催しました。見学会の感想や意見交換などの歓談と共に事務局からの報告と参加者全員の近況報告や自己紹介も行われました。乾杯の音頭は長嶋副会長、中締めは山下副会長が努めました。

<事務局報告>

- ① 新会員の紹介：大西啓仁さん(化学部門)
- ② 退会者：時合健生さん(化学部門)
- ③ 静岡県交通基盤部農地局農地整備部か

ら電気通信設備の鑑定・検査4名(岡井、佐藤、山下、大嶽会員の紹介)の委託の届出報告

- ④ 国際人財開発協会より講師派遣の要請
- ⑤ 不動産鑑定事務所からの機械設備評価への相談紹介
- ⑥ 松本会計担当理事より会費集金状況の説明
- ⑦ 柴田会報担当理事からの次回会報内容と会員方へのお願い
- ⑧ 松本会員により静岡市との災害協定後の学習会報告と今後の予定について
- ⑨ 北本会員より理科支援登録講師について現状報告



## 7. おわりに

富士山の世界文化遺産への登録が正式に決定したタイミングでもあり、富士山を中心に栄えてきた歴史ある富士宮市の文化の一端を通して、世界遺産の意義を感じた有意義な見学会でありました。今回見学した富士フィルム(株)富士宮工場や高砂酒造をはじめとする富士宮市の産業は、神聖な歴史的文化的価値のある富士山が生み出している澄んだ空気と豊富な地下水により発展を遂げていることを実感しました。

また、参加者は24名でありました。うち1名は、この見学会に限り特別参加された日本技術士会所属の横田川様(機械部門;スター精密(株)勤務)でありました。

会員の方々のご質問は、要約または筆者の解釈により正確性に欠けますが、ご容赦ください。最後に富士宮市職員でもある角入会員のご尽力で、この興味深い今回の見学会が実現することが出来たことに感謝いたします。

## 技術のさんぽみち

人間を超えたコンピュータ！次の目標は？

情報部門 藤波 正会員

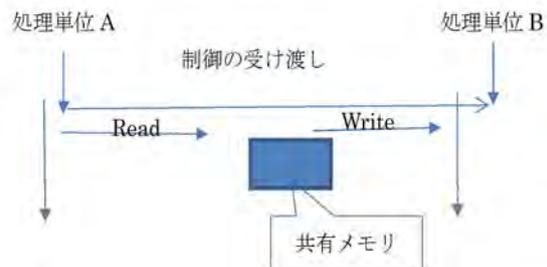
将棋のコンピュータシステムが、人間のプロ棋士と対戦し、勝利したことは記憶に新しいことと思います。チェスのコンピュータシステムでは、既に人間の世界チャンピオンに勝利して久しいです。どちらのコンピュータシステムも、人間が作成したものなので、人間対人間の勝負のようでもあります。100m 競争で人間が機械に負けても、何とも感じない方が多いと思います。ですが、このような思考の戦いでは、ショックを受けた方が多いと思います。

もちろん、どちらのコンピュータシステムも、将棋・チェスに特化したコンピュータシステムです。また、1台のコンピュータでなく、多数のコンピュータを接続することで、性能を向上させています。特に、将棋のコンピュータシステムは、最近急速に進歩しています。その背景には、コンピュータの並列処理によるところが大きいと考えられます。並列処理は、密結合と疎結合の2種類が考えられています。

前者は、スレッド並列と呼ばれているシステムです。プログラムの実行単位をスレッドと呼んでおり、実行時に必要なメモリを共有する特徴があります。そのため、並列処理を行う場合、ハードウェアが同一筐体内に存在する必要がありますので、物理的な制約が発生します。

後者は、クラスタ並列と呼ばれているシステムです。プログラム実行時にメモリを共有せず、メッセージの送受信を行う特徴があります。ネットワークも使用できるので、接続できるハードウェアは、制約がありません。しかし、システムを制御する場合、スレッド並列よりクラスタ並列の方が、難しくなります。

このように複数のコンピュータを接続し、1手ごとの盤上の局面を評価する評価関数を開発し、過去の対戦記録である棋譜データを基にデータベースを作成し、人間の思考と同様なアルゴリズムを開発して最善手を探索し、人間と対局します。チェス



※メモリの状態を示す セマフォ（信号機のようなもの）が必要になります。

図-1. スレッド並列の概要

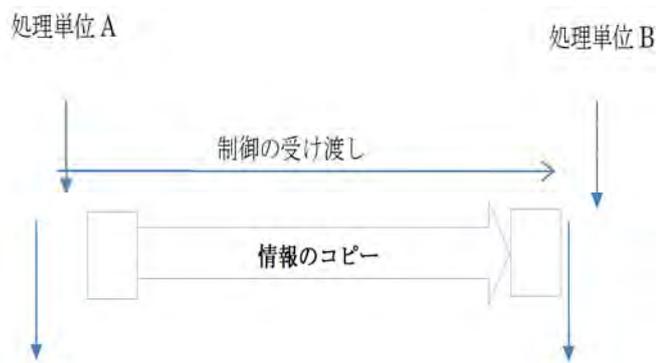


図-2. クラスタ並列の概要

世界チャンピオン ロシアの Gary Kasparov に勝利した IBM の Deep Blue というシステムは、クラスタ並列であると言われていています。Deep Blue の開発者は、アメリカで最も成功しているマイノリティである中国系の研究者です。

この他にも、サッカーの強豪国であるドイツは、コンピュータを活用して同国チームを勝利に導いていることは、日本のサッカー関係者では周知のことだそうです。ドイツ国内で、データ分析の専門家を集め、徹底的に相手チームの試合結果を分析し、数百ページにも及ぶ報告書を作成しているそうです。日本では、分析結果を得ているのですが、試合では活用されていないようです。

日本国内でも、電子機器を活用し、顧客データを収集・分析し、分析結果を利用して利益を上げている企業が数多く登場しています。また、第1次産業である農業分野においても、新し

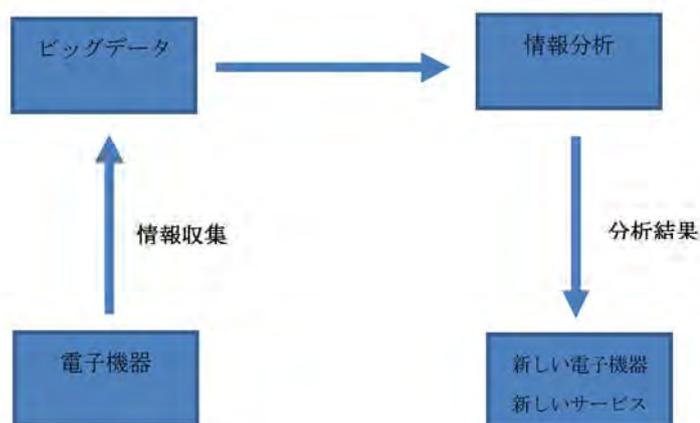


図-3. 電子機器を用いた情報分析の流れ

く開発したセンサを活用し、土壌成分情報を収集・分析し、結果を生産者にフィードバックする AI (アグリインフォマティクス) 農業が、システムとして構築されています。

日本政府は、IT 国家宣言を提案し、官公庁が有している様々な情報 (ビッグデータ・オープンデータ) を、民間に公開し、新たな産業の創出を期待しています。文部科学省も、ビッグデータ・オープンデータを処理する新しい数理的手法を、科学技術振興機構を通じて一般に公募しています。

職場においても、たくさんのコンピュータが使用されています。しかし、すべてのコンピュータが常時使用されているわけではなく、使用されていないコンピュータも数多く存在します。以前から、使用されていないコンピュータ同志を接続し、有効に活用することは考えられていました。

現在、ハードウェアのコストパフォーマンスとソフトウェア開発技術が大幅に向上したことで、従来の課題が解決され、データベースを活用したデータマイニングと融合し、大量のデータから科学的に根拠のある分析結果を算出することができるようになりました。

今回、人間の「勘」と「経験」という暗黙知が、デジタル化した形式知になり、更に集合知として取り扱われているコンピュータシステムを取り上げました。現在のコンピュータシステムが更に発展し、今後数多くの問題解決に導いてくれると確信しています。

## 小学校への理科特別授業活動の現況

中部本部理科支援委員会委員 吉田建彦

日本技術士会中部本部の理科支援委員会では、小学校高学年の理科特別授業を実施しており、沿革と現況を以下に報告します。

### 1. 理科特別授業への取り組み

資源の少ない日本は科学技術の振興が極めて重要という認識は多くの技術士が抱いている。

日本技術士会は文部科学省が2007年度から開始した「理科支援員等配置事業」を支援するよう科学技術振興機構から推薦を受け、そこで下記するような「理科大好きをベテラン技術士がお手伝いします」というパンフレットを作成し、活動を始めた。



技術士による理科特別授業は学校の正規の授業に対して、

①学校の教科書や授業ではカバーしきれないような面白くて印象深い実験や観察を行い、児童らにインパクトを与える。

②理科の授業で、学習したことが世の中でどのような技術に活かされているかを伝え、我々の生活がどのように良くなっているかを示す。

③それぞれの技術分野で、その道の専門家が児童の疑問にわかりやすく的確に回答する。などを授業内容とし、特に児童に直接実験や観察させ興味を持たせることに力点を置いている。

### 2. 中部本部での活動

中部本部では愛知、岐阜、三重、静岡4県において、2007年より小学校への出前授業という形で理科特別授業を実施している。理科支援委員会が会員技術士に呼び掛けたところ、十数人の申し出があり、いずれも「児童に理科を教えたい」「理科大好き児童を育てたい」という思いの技術士である。講師役の技術士は学校の教科書単元を確認し、補完する内容の講座を作成したので、講座一覧表を各自治体の教育委員会を通して小学校に説明した。授業に来て欲しいという学校からの申し出に対応し、2012年度までに実施件数251件、講座数57件、登録講師数44名に達している。技術士は技術の専門家ではあるが、小学校の授業に関しては経験が少ないので、

①「特別講師実施の心得」というテキストを

委員会で作成し、児童相手の授業のポイント  
を説明している

②「理科授業研究会」を3ヶ月に一回程度実施し、新規作成された講座を講師に授業形式で発表してもらい、参加の委員や名古屋近辺の教育委員、教師の方の意見をもらっている。

なお東日本大震災以降は地震、津波のメカニズムや防災教育も講座に取り入れている。

授業の報酬は原則1時限1万円を目安としており、2010年に「理科支援員等配置事業」の法律が国の事業仕分けで廃止されたため、予算がなくなり小学校からの授業要請は減少した。しかし、それでも愛知県や名古屋市などの自治体からは継続して授業要請が続いてきている。

授業実施後の児童へのアンケートや担任の教師からの手紙では、「面白かった」「役に立った」などのコメントが寄せられており、技術士の理科特別授業は好評と受け止めている。

### 3. 静岡県での活動

静岡県の登録講師は9人、実施件数は2012年度までで22件で、いずれも県内講師が実施している。講座は「簡易モーターづくり」「二酸化炭素・ドライアイスを使った実験」「野菜からDNAを取り出してみよう」「昼と夜は何故生じるか」などである。

国の予算がなくなってから、静岡県では2012年度に一件授業要請があっただけであったが、今年度に入り、二つのプロジェクトからの予算処置ができることになった。

#### ①浜松 RAIN 房

浜松市や静岡大学などが資金を出して設立した「ものづくり理科地域支援ネットワーク」で、RAIN とは RApport between Industry and Nature（産業と自然の協調関係）の略である。2008年より、理科の学習の場、体験の場を提供しており、浜松市内の小学校への出前授業

もそのひとつである。当・技術士会の理科特別授業の講座4件を5月に登録した。授業報酬は3千円/1件（交通費なし）である。

#### ②山崎自然科学教育振興会

牧之原出身で㈱TDKを設立された故・山崎貞一氏が私財を投じて設立された財団で研究助成、山崎賞、科学教室講師派遣などを静岡県内に限って支援している。同財団は当・技術士会の理科特別授業を評価し、授業1件ごとに報酬2万円（材料費/交通費別途支給）の支援の申し出が5月にあった。これを受けて、当・理科支援委員会では県内各自治体へ理科特別授業のPRを改めて行っており、7月には磐田市の小学校から授業要請が1件あった。

### 4. 終わりに

技術士の理科特別授業は「日本の将来を担う児童に理科を教えたい」という思いの表れであり、社会への貢献という点で技術士らしい活動と考え、理科支援委員会では今後も継続して実施していく所存である。お知り合いの学校関係者にもPRいただきたい。なお参加してみたいという会員の方は、理科支援委員会（中部本部ホームページ参照）までお申し出ください。



授業風景（電池の作り方）

## 会員の近況

第一段として、建設部門の山西正朗会員に近況をインタビューしました。山西会員は、軟弱地盤や地すべり地での土質・基礎に関わる技術を専門としておられ、日本エルダルト（株）の取締役として第一線で活躍されております。

### ①最近の技術的取組み

地下水調査は、目に見えない地下自然物の調査では、極めて重要な事項であります。ボーリング孔を使った観測井戸は、「井戸の仕上げ方」が地下水調査である流動層の把握（地下水検層）や流向・流速測定試験の良否に大きく影響します。ところが、この仕上げ方には地域差、個人差があり、確立され統一化された方法がありません。山西会員は、その観測井が調査目的に応じた作成方法があると考え、削孔法、保孔管材質、ストレーナー開口率や洗浄法のマニュアル化を大学関係者と共に進めております。

### ②技術伝承について

先輩技術者を「見て、盗め」という考えで後輩に指導してきたが、その難しさを感じ、若い技術者が育っていないように感じる。外部との



人付き合いを広め、いろいろな方向から見る目を育ててほしい。静岡のように情報や交通に恵まれている

のが、原因の一端かもしれない。

### ③静岡県技術士協会への要望

技術士というものを社会に理解されるようなイベントを開催してほしい。社会的認知が何をすることも第一ではないでしょうか。

## 新 会 員 紹 介



氏 名：大西 啓仁(オニシ ヒロシ)

生年月日：昭和 27 年 4 月 13 日

入 会 日：平成 25 年 6 月 27 日

技術部門：化学部門

選択科目：高分子製品

勤 務 先：粘接着技術研究所（自営）

自 宅：浜松市

そ の 他：（業績）各種粘着製品に関わる技術開発  
及び製品化  
（その他の資格）公害止管理者大気第 1 種、  
危険物取扱者甲種

## 会員消息

- <訃報> 絹村 薫 (上下水道部門) 名誉会員 平成 25 年 4 月 25 日 逝去されました。  
謹んで、ご冥福をお祈りいたします。(ご遺族の連絡先は、事務局へお尋ねください)
- <退会> 時合 建生会員 (化学部門) 転勤により退会いたしました。
- <住所変更> 金 成秀会員 (上下水道部門) 下記に住所変更されました。  
新住所：静岡市葵区大岩 4 丁目 4-5-1 (鈴木設備工業内)

## 事務局からのお知らせ

### <メーリングリストへの登録ご案内>

静岡県技術士協会の会員相互の情報交換のためにメーリングリスト(ML と略す)を使用しております。次のアドレスにメールをお送りいただきますと登録された会員全員へメールが自動転送されるシステムです。

ML では、会員相互のタイムリーな情報交換だけでなく、会長、専務理事などからの関連する会員向け各種行事案内、あるいは県、市などからの業務問い合わせ、日本技術士会からの情報などをメールで送っております。ML 未加入の会員は、是非登録をお願いします。

ML への登録は、静岡県技術士協会の会員についてはシステム管理者 (山下会員) が行います。希望者は「shizuoka-pej@freeml.com」へ依頼のメールを送って下さい。

ML システムへの参加登録者一覧はシステム管理者だけが知り、協会役員以外には公開いたしません。

### <会計担当からのお知らせとお願い>

平成25年度の年会費が未納の方は、早急に下記口座番号にお振り込みくださるようお願い申し上げます。

取引銀行：静岡銀行 磐田支店 (321)

名義人：静岡県技術士協会

口座番号：0980271

会費：一般会員 ¥8,000- 名誉会員 ¥4,000- 賛助会員 1口¥10,000-

## 編集後記

富士山文化遺産登録の悲願が達成し、経済的にも明るい将来が期待されていますが、環境保護の側面でも静岡県の真価を問われていることも事実であり、喜びだけではないと思われまます。今年第 1 回の例会は、(株)富士フィルム富士宮工場様でありましたが、富士山を取り巻く地域の一員として以前から環境保全に取り組みされており、企業理念と行動が一致した会社であることを学び取り、心から敬服いたしました。

日頃はお忙しく、協会諸行事に参加できない方も多いため、気軽に会員からの情報発信という場所として新企画である「会員の近況」の第一弾を掲載しました。今後も継続を考えていますが、インタビューをお願いした時は、お気軽にお考え、受諾をよろしく、お願いいたします。

(会報担当：柴田 達哉、關 尚彦)